

ご参加された皆様へ

先日はたいへんお疲れ様でした。心配された天候も小雨程度の空模様となり、かえって、「古都」京都の風情を色濃くしてくれた一日であったかと思えます。

早速ですが、下記に当日のコース及び簡単な説明を記しましたので、当日を思いだしながら後日の参考にしていただければ幸いに存じます。

記

午前の部

京阪中書島駅(AM10:00)～長建寺～酒蔵通り散策～寺田屋～日本最初の路面電車発祥碑～油掛け地蔵尊～黄桜酒造到着、黄桜(別称、御衣黄桜)鑑賞 黄桜カップカントリーにて昼食。

午後の部

黄桜出発(AM12:50)～会津藩屯所跡石碑～魚三郎(鳥羽伏見の戦い銃痕跡)～近鉄桃山御陵駅——竹田駅で京都地下鉄に乗り換え——丸太町駅下車～京都御苑入場～閑院宮邸址～京都御所(宜秋門)入場入場後 建礼門～道喜門～その後参観順路に沿って(清所門)より退場～御車返しの桜～近衛邸の糸桜(紅しだれ桜が満開)～今出川御門より退場～同志社大学構内にてお茶休憩～相国寺境内～本満寺の桜～出町栴形商店街～ふたば餅店～京阪電車出町柳駅着(AM5:00)無事終了。

巡った箇所のワンポイント解説

**長建寺**：昔、この辺りは遊郭の有った所でその中心に建てられた。ご本尊は弁財天。桜博士の佐野藤右衛門さんの枝垂れ桜。

**酒蔵通り**：まるやかな地下水により柔らかな味の清酒が特徴の酒蔵が軒を連ねる。月桂冠の大倉酒造や黄桜酒造が有名。

**日本最初の路面電車発祥の碑**：明治28年京都で開かれた第4回国内勲業博覧会に合わせて琵琶湖疏水の水力発電により日本初の路面電車が塩小路高倉(今の京都駅東側)～伏見の下油掛け町間約6.5キロ。

**油掛け地蔵**：油商人がお地蔵さんに頭から油をかけたところ、その後商売繁盛した事から特に油商の崇敬を受けている。

**黄桜**：八重桜の種類で普通の桜より少し遅く満開を迎える。別称：御衣黄桜とも呼ばれる

**会津藩屯所址**：鳥羽、伏見の戦いで幕府側会津藩がここに屯所を置いた。

**魚三郎**：伏見有数の料亭で江戸末期からの創業。鳥羽、伏見の戦いの際の銃痕の跡が表の窓格子に残っている。

**京都御苑**：明治13年に周囲nの土塁、石垣がつくられ、周囲4キロ 面積65ヘクタールの御苑ができた。

昭和24年に東京の皇居外苑、新宿御苑と共に国民公園として現在は環境庁の所管。

**閑院宮**：四親王家の一つ。119代光格天皇は閑院宮家の皇子で現在の今上陛下はこの宮家の皇統になる。

**京都御所**：もとは土御門東洞院の屋敷を皇室が里内裏として使用していたが(1331)光厳天皇即位の際御所と定める。

(1392)南北朝統一がされたのを期に明治維新まで長く皇居として定着することになった。

**建礼門**：天皇、勅使の使用する格式を誇る門。葵祭、時代祭はこの門から出発する。

**道喜門**：応仁の乱後疲弊した都は天皇といえども食べる事にも苦勞する時代をむかえる、そのころ中村五郎左衛門なる菓子職人(餅)が毎日御所を訪れ餅などを差し入れる様になった。余りにも毎日の為大きな門を開けるわけにいかず建礼門の東側に小さな門を作ったと言われている。この菓子職人は川端道喜という商号で商売を始め現在も粽、餅等の名菓子店として盛業されている。

**御車返しの桜**：後水尾天皇はこの桜の横をとうり過ぎたがあまりの美しさの為、御車を引き返らせた事からそういわれる。

**近衛邸の糸桜**：五摂家の一つ、近衛家の屋敷があった所に残った様々な桜が春の京都御苑に多くの人を惹きつける。

**相国寺**：京都五山の二番に準じ、室町幕府の庇護を受け、金閣寺、銀閣寺を境外塔頭にもつ大寺院。

**本満寺**：日蓮宗の本山。境内に山中鹿之助の墓がある。最近は見事な一本のしだれ桜が人気を呼んでいる。

それではまた皆様と楽しい旅が出来ますよう更に研鑽しますので今後共宜しく願います。 笹井 敏博